

## 令和6年度第2回山ノ内町総合教育会議

### 1 開催日時・場所・出席者

○日 時 令和6年3月27日(水) 午後6時00分から午後8時10分

○場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

○出席者

#### 【構 成 員】

山ノ内町長	平澤 岳
山ノ内町教育長	竹内 延彦
山ノ内町教育長職務代理者	黒岩 博之
山ノ内町教育委員	堀米 ひろみ
山ノ内町教育委員	山本 均
山ノ内町教育委員	野竹 重範

#### 【オブザーバー】

山ノ内町立山ノ内中学校長	山口 近
山ノ内町立南小学校長	中村 まゆみ
山ノ内町立西小学校長	齋藤 義和
統合準備委員会委員長	原 隆文

#### 【関係職員】

山ノ内町総務課長	古幡 哲也
山ノ内町総務課庶務文書係長	田村 清志
山ノ内町教育委員会事務局教育次長	田中 浩幸
山ノ内町教育委員会事務局学校教育係長	坂口 俊明
山ノ内町教育委員会事務局スポーツ係長	田村 英則
山ノ内町教育委員会事務局学校給食センター所長	小林 知之
山ノ内町中央公民館長	小林 広行
山ノ内町教育委員会事務局中央公民館長補佐	新井 孝宜
山ノ内町教育委員会事務局生涯学習係長兼人権政策係長	秋元 素江
山ノ内町教育委員会事務局指導主事	小林 妙子

2 傍聴者 45名

### 3 開会

- ・田中教育次長の開会の宣告に続き、公開での開催のため傍聴者への注意喚起を行う。
- ・議長の指名までの間、進行を田中教育次長が務めた。

#### 4 あいさつ

(平澤町長)

統合小学校の方向性を決めなければならない時期に来ており、本日は私の考え方と教育委員会の考え方をしっかりと議論できればと考えている。

(竹内教育長)

今日は大変重要な学校統合について、町長と教育委員会で忌憚なく議論を交しながら、建設的で有意義な議論の場になることを心から願っている。

#### 5 議長の指名

(町長)

本来であれば私が議長として進行するところだが、今日は教育次長に進行をお願いしたい。

(次長)

本日、オブザーバーとして町内の校長先生並びに統合準備委員会の委員長の4名にも参加をいただいている。会議は「学校統合」をテーマに議論する予定。

小学校統合は、魅力ある教育環境・魅力ある教育内容が必須であり、本年度4月以降、教育委員会では町民から意見をいただきながら、また学校長、統合準備委員会と共に検討、議論を重ねてきた。

3月議会で平澤町長から、これまでの検討を踏まえ既存小学校を改修・活用することでコストを抑え、教育内容の充実に財源を投入するという、従来の中学校敷地案から大幅な方向転換の方向性が示されている。

本日の会議で、新たな方向性として財源を有効活用し、子ども・子育てと教育環境の質的魅力を向上させたいという考えが示されているので、最初に町長からこれまでの経過を踏まえてお聞きしたい。

#### 6 協議事項

(町長)

新聞にも載ったがハードからソフトへという方向転換。なぜそういう結論に至ったかということの説明させていただきたい。

まず、町長になった理由が日本の危機的状況、そして山ノ内町の危機的状況にある。普段生活していると、そこまで日本が国外から与えられている脅威を感じないが、実際に日本の国の力が低下している。もう日本の若者が海外に出稼ぎに出るようになってしまった。80年代とは全く逆転の状況が起きている。IMFが出している資料では、2050年にはGDPがインドネシアに抜かれるという予測も出ている。日本は生産性も悪いしGDPも低くなっていくということを総務省のセミナーでも散々言われており、相当気を引き締めて総理大臣が言ったような異次元の対策を取ってかなければ本当にまずいというところまで追い込まれている状況である。

人口グラフでも分かるように労働人口がどんどん減って、60歳以上が増えていき、どういう影響が出てくるか、そこまで肌で感じているわけではないが、ただそれに対して向こう20年30年を見据えた町づくりをしていこうと思っている。

町の問題としても人口減少・少子高齢化、産業が偏っている、体育館やジム、プールなどの施設もない。中野市の方が便利だと言って中野市に住んでしまう若い家族もいる。施設は老朽化し、公共交通も現在は、デマンド交通に切替えたものの皆さんのリクエスト応えた公共交通を作るわけではない。長電バスがいつまで運行してくれるか分からない状況で、条件次第では撤退すると言われている。

学校も統合問題があり、また子育て施設でのサービス不足、少ないふるさと納税、賃貸住宅や公園も少ない。東京は角を曲がれば小さな公園がある。空き家も増加しており社会的な問題になってきている。人口減少はどんどん進んでいる。

私は、これらを好循環に持っていきたい。人口を増やし、財源を増やし、いい施策を打って賑いを取り戻す。そうするとまた人口が増えていき好循環に入る。

その中で、賑いを作るということでは、湯田中駅前を新しくする、温泉街を活性化する、スキー場もリニューアルしていく、新規産業を作る、若い人たちが働きたくなるような産業も作る。魅力ある学校教育や体育館、センターを作るための財源確保も必要になる。人口を増やすための労力、例えば住宅建設とか子育てサポートとも必要になってくる。いろいろ考えていくと教育というキーワードは必ず出てくる。

若い世代をいかに魅了して、町に住んでもらうかと考えた時に、学校や保育園、子育てサービスというものが、魅力的でないと来てもらえないというのは明白。目指すところは住みたい町、子育てしやすく、健康長寿でお年寄りから小さい子までが元気にいられるような町にしたい。仕事がある、魅力があるところにしていきたいと思っている。

既に、観光局などは動き出しているが、町民サービスも充実していきたいと思っている。1番は経済活性化が重要と思っており、移住者が住みたいと思える町づくりというものが必要だ。

これからは、女性と外国人が住みやすい、働きやすい環境づくりが必須だと思っている。私が東京で働いていた時の会社の会長がミヨシさん。経団連で事務総長もやった方のもう20年前の話だが、日本の将来は、女性と外国人が働きやすい社会にならなかつたら日本経済は死んでいくということを繰り返し話していた。今まさに目の前の危機という状況で表面化してきていると思っている。

私も町長1年目で他の自治体の良い事例を勉強している。茨城県境町は人口2万3000人だが英語留学を打ち出し、子育て支援日本一を目指すと言って様々な施策を行っている。ALTの先生が1校あたり3.4人の計算になり、英語が学校の中で日常的に飛び交うような環境を作るなかで、そうした環境で子どもを育てたいと思う親が引っ越してきている。また教育環境を良くするだけでなく、一戸建てを20~25年賃貸で住んでいると土地ごともらえる施策も行っている。町の財政はどうなっているのか調べたが、官民連携で民間も巻き込んだもので町の施策で出ている。これは一例だが非常に魅力的に映って人口を増やしている町のひとつではある。

千葉県流山市も移住者が増えており、こちらは本当に子育てしやすい環境を作っていて、保育士への賃金の上乗せや英語関係にも力を入れている。流山市は新しい電車の路線で、新しい建物やマンションがたくさん建って本当に駅前が栄えているという感じ。

もう1つは北海道東川町。人口8600人の町だが移住者がどんどん増えており、広い敷地に52億円をかけて大きな小学校を作り、子育て環境を整えたから子どもたちを連れた親がたく

さん移住している。大体2割強が移住したということだった。先日、東川町の副町長と懇談する機会があり詳しく聞かせていただいた。東川町では、近くで通える学校も必要ということで少人数の小学校も残して、大きい小学校にも力を入れているという話をされていた。

新聞で地価の発表があったが、山ノ内町は相変わらず2%程度下がっていた。県内では白馬村が上がっており、全国で非常に上がっているのはニセコ。ニセコ町も問題を抱えており、外資のリゾートホテルが出来るがそれをカバーするインフラ整備にお金がかかる。視察に行った際に町長と懇談させていただいたが、今は住宅プロジェクトを動かしているとのこと。お年を召してきた方がニセコで1戸建てに住んでいると除雪などの問題で住みにくく、今であれば土地を売るとかなり高額で売れるので、土地を売って札幌のマンションに住んでしまう方が多い。住宅プロジェクトは、町民の方が町内に引っ越すというのを想定しての賃貸物件を作ったり、分譲物件を作ったりということをやっているそう。

移住者が増えている自治体と当町の違いをいろいろ考えている。例えば白馬村は人口ほとんど変わっておらず平成20年から移住者が増えている。倶知安町は若干減っているが東川町は110%に増えている。境町は92%で、山ノ内町は平成2年で22年との比較だと79%まで下がっている。観光客数では当町に来ている観光客367万人、白馬村は200万人、ニセコと倶知安は合わせて240万人。当町は観光地として非常に大きいポテンシャルを持っているが、人口減少が加速して止まらない状況。他の自治体では、実際に人口減少をくい止めているところがあり、人口減少を止めることは私のミッションだと思っている。それに対しできることは全てやるという決意で町長になっている。

そういう意味で観光経済の活性化と集中と選択が必要になってくる。当町の経済は観光と農業と言われている。観光は志賀高原、北志賀高原、湯田中渋温泉郷、野猿公苑。課題を出してみるが、志賀高原は非常に知名度もあり、広くて自然も豊かで素晴らしい場所でユネスコエコパークにもなっているが、国立公園としての維持管理にも費用がかかる。スキー場もリフトやゴンドラが老朽化し、宿泊施設も倒産などにより減少している。北志賀高原も同じで、どうやったら4シーズン稼働できるかスキー場は模索している状況。湯田中渋温泉郷では、地獄谷野猿公苑が唯一、オーバーツーリズム対策が必要な状況で、トイレなどのインフラ整備をこれから少しずつ進めていきたい。ただ野猿公苑の近くにある砂防ダムの工事が行われる可能性があり、その場合どうなるかということも議論になっている。

農業では、スマート農業への移行や遊休地の対策、世代交代や後継者不足の問題、鳥獣被害も出ている。最近では、天候不良などの影響が農作物にも出ており、そうしたことへの対策も必要となっている。様々な魅力やポテンシャルのある町であるが課題もたくさんある。

総務省ではコンパクトシティ構想を推進しており、進めていかなければいけない施策のひとつだと感じている。ニセコではないが、住みやすさを優先し札幌のマンションに引っ越してしまうように、生活することを考えた時、住宅が分散していると町も賄えなくなる。もちろん全員が1箇所に住むという話ではないが、こうした構想をもとに町づくりをしていく必要があり、日本全体がそうした課題を持っている。

あくまで私案であるが、町には湯田中渋といった素晴らしい温泉街があり観光エリアとして力を入れていくべき。人はどこに住むのかと考えた時に上条や本郷あたりは非常に災害に強いエリアで、農地としてもいい場所であるが住みやすい場所でもあり、上条駅と夜間瀬駅を活用

し、このエリアを住宅エリアにして色々なプロジェクトを作っていきたい。鉄道も通っており長野電鉄の将来的な維持、どうしたら鉄道を使ってもらえる環境ができるかと考えたら、住宅エリアにしていくことも理に適っているのではないかと考えている。

その上で、充実させたい町民サービスのひとつとして体育館やジム、町民プール。これは選挙の際に、皆さんからすぐリクエストがあったものの一つ。あと中学校と小学校の両方でプールを構えるよりも共有した方が効率がよいのではないかと、公園整備やビジターセンター、賃貸住宅をどうやって作ろうか。総合型地域スポーツクラブもお金がかかってくる。先日、設立総会を行ったのでご存じだと思うが、私の考え方では子どもたちにも大人にもスポーツと遊びで楽しめる場を作るべきと思っている。すでにクラブ移行しているものもあるので現状を踏まえながら今後整備していきたい。

体育館がないとよく聞くが、ただ体育館を作っただけでは非常にお金が掛かってしまうので、作るのならば外貨を稼げる体育館を作りたい。町民が使えて、町外からもわざわざ来てもらえるような体育館を作れないかと模索をしている。あとアウトドアスポーツのためのグラウンド整備、子どもたちに人気のスケートボード場などの整備もしていきたいと思っている。スケートボードは賛否があるのは分かっているが、若い子どもたちの中にやりたいという子が一定数いるのは間違いないので、これらをきちんと押さえていくことも必要だと思っている。

山ノ内町ならではのスノースポーツ。スノーボードがオリンピックで初めて種目になった際の会場だが、そのレガシーを活かせてない。スノーボードもスキーと同じくらい力を入れてスキー・スノーボードクラブを作っていきたいと思っている。個人的には、ベイルのスキー・スノーボードクラブやウィスラーマウンテンスキークラブの運営方法を学ばせてもらいながら、将来、山ノ内町でどういうことが可能なのかということを考えている。

あとは町民プール。学校で使うだけではなく、リハビリのためのプールとしても非常に効率的で効果があるので、町民温泉プールみたいのがあるといいと思っている。

公園の整備もしたい。子どもたちが気軽に歩いて行って遊べる公園がすごく少ないと思っている。これは私がやりたいというだけで、やまびこ広場には噴水があり、この町で遊べる場所としているので人工芝を整備し、夏も遊べるように日陰を用意できればと考えている。

今回の小学校統合は個人的にはとにかく早くしたい。運動会の人数が少なくなった、音楽会で音楽ができないといった弊害が聞こえている。議員の中には2校にすべきなどの意見もあるが、ここまで児童数が減ってきている中で、私はなるべく早く統合すべきだと思っている。

様々な理由で時間がかかるのは理解しているが、とにかく手続きに時間がかかる。手続きを踏むことは必要だが、もう少し早くできないかと思うことは多々ある。

統合にあたっては、既に3つ小学校があるので新校舎の建設は必須ではないと考えており、この考えは初めからあまり変わってない。教育委員会との話し合いの中で、中学校敷地に新校舎を作ることも別に否定はしてこなかった。費用をかけてでも得られる中身があれば、それでもいいと思っていたが、ただお金をかけるとしたら、それなりの対価が得られなければいけないので中身を議論してくださいと言いつつ続けた。中身が大事だと思っているので、いい対価があればこういう理由だから新しい校舎にお金をかけると言いきれる。だが、その対価の中身を示してもらえないので、申し訳ないが新校舎建設は諦め、既存の小学校を使った早期で、なおか

つ中身を充実させた小学校統合を実現させたいと思っている。それが新聞にも載ったハードからソフトへという大きな方向転換ということ。

この10年議論されてきたことは承知しており、町民の労力や熱も十分理解しているが、一方で新型コロナやウクライナといった全部覆すような外的要因もあり、建設コストが1.5倍から2倍に上がってしまった。10年間議論してきたからといって50億もの費用をかけることは難しい。その分もっと中身にお金をかけて魅力的な学校を作ることができるのではないかと。

教育長にも相談し、山ノ内町の学校に町外からでも自分の子どもを通わせたいと思ってもらえるような中身を考えてくださいと、まず叩き台の様々な案を出していただいた。あくまで案だが、ESD教育で専属コーディネーターやICT教育の専門アドバイザーを配置したらどうか、あとは授業時数特例制度などによりESD活動を拡充させたらどうかとかといった様々な案を出していただくことができた。

教育長がずっと言っている「子どもが真ん中」。その言葉も含めて子どものための小学校統合をしっかりと作っていきたい。ハードからソフトに転換することで、町全体をいかに子どもの学びのフィールドに作り上げていくか。中学校敷地に建てるための50億円をかけるのではなく、今使える建物を利用し中身にお金をかけていきたいというのが今の私の思い。中身を充実させることで、プラスアルファで住宅を作るや空き家問題を解決させる、若い家族が住める場所を用意することで移住者も少しずつ増やせる可能性があるのではないかと。

中学校敷地に建てる側の立場で考えてみたが、メリットはもちろん小学校中学校の連携9年間の連続した教育。協調性が高い子に育つ。将来、義務教育校にすることが可能。

既存小学校を利用した時のメリットは、建設費用が間違いなく安く抑えられる。早い時期での統合が可能になる。必ずしも新しいものが良いわけではなく、使えるものは使っていく。小・中学校が物理的に離れていても連携は可能だと聞いている。土地を買収しなくても統合は可能で、先ほど話した住宅建設等の町づくりとの連動も可能になってくる。廃校が2つで済む。給食センターも既存施設の利用が可能になる。

同時に中学校でのデメリットは、建設費用が非常に高くなる。建設中の中学校の授業への影響も少なくない。プールがなくなる。小学校を頑張って作ったとしても狭いところに押し込むことになる。人手不足が建設にも影響が出てくると令和11年の統合がもう少し遅くなる可能性がある。廃校の利用も考えなくてはならない。

既存小学校を利用するデメリットは、小中学校が離れているため連携が取りづらい。義務教育学校にはできない。校舎の長寿命化工事が必要になる。工事中の授業への影響が多少ある。西小の場合には児童クラブの場所がなくなる可能性がある。

ただ私の中で全体像を考えると、町民サービスの充実や教育内容を充実させるためにお金はかかるので、新築の必要性とこれを天秤にかけた時には町民サービスの方を重視させたいと思っている。

50億円程度かかるとしても実際は一般財源から支出は2億2000万を想定し、23億円は地方債という債務となる。交付税措置があるので実際は9億円程度が借金になる。ただ2億円はキャッシュで出さないといけないが、今の財政状況ですぐ出せる金額ではない。

西小校舎を利用するイコール東小や南小が吸収されるわけではない。3校が1つにまとまる統合小学校の場所をどうするかという話であり、どっちかに吸収されると考えて欲しくない。

私としては山ノ内町の統合小学校を作りたい。場所は正直どこでもいい。既存の小学校を使った方が効率が良く、今後のビジョンを考えたなら西小の敷地が1番いいと思っている。廃校になる2つの学校を今後どうやって効率よく利用するかと考えた時に、ひとつとして公立の日本語学校。これから外国人の増加が想定される中、日本語を教えてあげられる場所を作ることによって、山ノ内町に定住してくれる外国人が増える可能性がある。実際、東川町では公立の日本語学校を作っている。

あとスポーツに特化した文武両道の高校。私が行ったアメリカの高校は文武両道のスポーツアカデミーだった。日本はどうしてもスポーツができる特待生などは勉強しなくていいみたいなこと平気で大人が言う社会。私は絶対に間違っていると思っていて、どんなにスポーツができて勉強すべきと思っている。そうしたことが両立できる学校を作れないか。どちらかという私立に入ってきてもらえればと考えているが、そういう可能性もあるのではないかと考えている。

また専門学校を誘致してくることも考えられる。ホテルやスキー場の経営者を育成する専門学校を誘致し、世界中から生徒を集めることによって町の産業でもあるホテルやスキー場への人手不足も少しは補えるのでは。

最後に、国際友好交流を増やしていきたいと思っている。現在、アメリカのベイル町、中国の密雲県と姉妹都市を結んでいるが、4月半ばにフランスのサンジェルベレヴンに行く。シャモニーの横にある小さな町だが、友好都市を結ぼうかという話が始まっている。子どもたちが留学しやすい場所としてアメリカのホノルルなどがいいと思い、ホノルル市長ともメールでやり取りを始めた。子どもたちが留学しやすいような場所と友好都市を結ぶことで、今後、町の子どもたちが海外に出てきたい時にステイできる場所を町が提供できるようになり、学校間交流や文化交流、町民同士の交流もできるといいと思う。国内では足立区と玉村町とも交流があるが、先週、北海道の美唄市とパートナー提携を結んできた。これは民間交流よりも自治体同士のインナーサイトの交流になるが、こうしたことも今後、増やしていきたいオープンで開かれた町を作りたい。

私の方から、今回ハードからソフトに転換した理由と、これから私が思っている町政運営の目指すところの町づくりの理由で、今回の結論に至った説明をさせていただいた。

<休憩>

(次長)

町長から多岐に渡る町づくりビジョンの説明をいただいた。町の現状と課題、人口減少をいかに食い止めるか、産業の活性化、好循環への方法、将来を見据えた取組。そして町づくりビジョンの中に位置付けられた小学校の統合について。町づくりの中での観光エリアと文教エリアの区分けについて。そして既存小学校を利用した統合。改めて西小学校の活用という報告と併せて将来的には西小学校のエリアに小学校と中学校を目指していきたいという点まで踏み込んだご発言をいただいた。

町長のビジョンを踏まえて教育委員からご意見、ご発言をいただきたい。

(委員)

町長の素晴らしい町づくりビジョンが発表に至って本当に良かった。公約である孫たちが帰ってきたくなるような山ノ内町という言葉が聞こえなくなってしまったが、地元に戻りたいと思えるような町づくりを目指してほしい。

2点ほど確認を兼ねて質問させていただく。

1点目は、町長が昨年9月に言っていた全国各地から山ノ内町の学校に通わせたいと思ってもらえる最高の学校作りにしてほしい。そのためなら必死に財源は確保し予算をつける覚悟があると。また教育委員会に対し新校舎建設の場合「床面積が1人あたり25㎡以上」「新しい飯山小学校より広くすること」というものがあつた。既存の西小学校での統合であれば1人あたり16㎡程度となり、山中併設であればそれより少し広がる。

2点目は、開校場所は3小学校のいずれかとし、教育委員会と協議の上で決定すると議会でも発言されたが西小学校と限定された。以上のことは町長のビジョンに全然反映されてなく、言っていたことがどれも当てはまらない内容だがそれでよいか。

(町長)

先ほど説明したとおりお金をかけるからには中身が必要と繰り返しお伝えしてきた。そのことは基本的には変わっていない。中身が良ければ予算もつけるつもりでいた。

(委員)

その中で撤回した理由を教えてください。

(町長)

中身の提案がなかったからである。

(委員)

もう1点。2月にハードからソフトの方にお金をかけたいと大きな方針転換があつた。提案があつた内容について年間どの程度の費用を想定しているか。

(町長)

案の段階なので費用の試算はできていない。あくまでこういうことをやりたいという内容であり、これをやりますという話ではない。

(委員)

教育委員会で試算したところ、これを実現しようとする場合、年間2億円以上かかり毎年支払わなくてはならない。また人材の確保もとてつもなく難しいと聞いている。それも踏まえていただければと思う。



(町長)

あくまで町の特色を作っていくアイデアのリストで全部やりますと言った覚えはない。魅力があれば移住者も増える、それだけの価値があれば70億円かけてもいいと言ったことは覚えている。孫たちが帰ってくるのと移住者が増えるというのは別物ではないと思っており、孫たちが帰ってきたくなるようであれば、移住者も増える。子育て世代に魅力的な町づくりをし、若い家族がここに住みたいと思ってもらえれば、孫の世代も住んでもらえるのではないかと思っている。

(次長)

委員から昨年までの経過、平澤町長とのやり取りの確認があった。

(町長)

当初、西東南を決めるのは教育委員会に行っていた方がいいと思ったが、町づくりの全体ビジョンを考えたときに西部エリアの方がいいと思った。町の方針を私1人で決められるわけではなく議会も通さなくてはいけない。今回の提案はあくまで私案であり、私としては西小が今1番いいと思っているが決定事項ではない。

(委員)

本当に素晴らしい提案をいただき、提案のとおりになったらどれだけいいかと思う。町が抱えている問題を的確に見ているなという印象を受けた。

1点確認するが、先ほどの質問に対し中身の提案がなかったとのことだが本当に中身がなかったか。

(町長)

正確に言うと、50億円かけてもいいと思える提案がなかったということ。全くなかったわけではないが、先ほど話したとおり費用との釣り合いという点で私が50億かけてもいいと、町民に説得できる材料ではなかったということ。

(委員)

区長会、学校や保育園の関係者、学校長などで構成されている統合準備委員会が、一生懸命時間をかけて作り上げてきた合意形成に対し、お金をかけるだけの中身がなかったと判断されるのであれば、準備委員会に対してもしっかりと説明をいただく必要があると思うがいかがか。

(町長)

教育委員会の皆様に私の考えは何度か話している。基本的にはそれで理解していただいていると思っていた。全員に説明するより主体となる教育委員会に本当に中身が良ければお金をかけていいと言った。中身づくりがどれだけ大切かということは何度もお話ししたと思う。10年議論してきたと言われるが、選挙時に反対意見があったから立ち止まって考えると話した。

(委員)

町民の代表が10年かけて作ってきたものの中身を町長は否定されるということか。

(町長)

私も選挙で町民に選ばれ公約で1回立ち止まって考えると言っている。応援していただいた方、全員が教育に関して同じ考えだとは思わないが、私の公約理念に賛同いただき町長になった経緯からして、私の考えも町民の意見であると考えている。

(委員)

今日の説明内容は、町づくりを根本的に考えており、すごく多岐に渡っている。本日、公の場でお話しされることを議会は承知しているのか。

(町長)

これは私のビジョンなので、私のビジョンを語るのに議会の同意はいらない。

(委員)

町長の壮大なビジョンが町の総合計画など示され、議会や町民もその方向で行くべきとなった時に、住宅エリアとなる西部エリアに小学校がいいのではという議論がそこで生まれる。根拠というか、町の総合計画などにも出ていないことを我々としては決めかねると思うが。

(町長)

第6次総合計画は町長就任前に策定しているので、私の考えは計画に反映されていない。今回の提案は、数年かけて町づくりを進めるための私のビジョン。私が町長になったのに今までと何も変わらないことを町民は望んでないと思う。これから総合計画の修正を行っていくべきだと思うし、必要であれば目標値も変えるべきだと思う。私としては時代に合った町づくりを目指していく。

タイミング的に学校統合の問題が先に来ているので、私のビジョンを話した。ただ、最終的に学校の位置や中身を決定するのは教育委員会なので、あくまで教育委員会が内容を決定し、私は予算決裁をする。ただ現在の内容では納得できない、50億円の支出はしないという話。

(委員)

我々も納得できない50億円の支出を求めないが、例えば町の総合計画を修正するのであれば、そちらが先ではないかと考えているがいかがか。

(町長)

子どもたちの今は今しかないので、統合は待たなしでやるべきだと思っている。理想を言えば計画があって、それに沿って学校の場所を決めるのもいいが、計画を作るのは時間がかかる。統合は、ここまで議論されてきており白紙にする気はない。統合すべきという意見がたくさんある中で、私も統合はすべきだと思っている。

(委員)

西小で令和9年4月を目指すとのことだが、東小であればすぐに統合できるのではないか。

(町長)

統合するには建物の話だけではなくて、様々な準備も必要と聞いている。

(委員)

お金の問題ではどうか。

(町長)

東小をそのまま利用しても良いと思う。例えば東小を利用しその後、西小を整備していくのでもいいし、東小をそのまま利用するでも良い。

(委員)

町づくりのプランとして西部は住宅エリア、東部は観光エリアとのことだが、将来的に西エリアに素晴らしいものを作るとも言っていた。中学校も西エリアに持っていくということか。

(町長)

それを視野に入れてもいいと思う。中学校の校舎もずっと利用できるわけではないので、中身づくりとして、小中学校が隣接、若しくは義務教育学校を検討するのであれば西小を広げ小中学校を作るということも可能性としてはある。西小は地盤も安定し災害にも強いエリア。東小を選ばない理由として急傾斜地を抱えていることも若干ある。また土地の拡張性を考えると西小の方がいい。また全く違う場所に作ることもありえると思っている。人口が増え、町が活性化したらそこまで出来るのではと思う。

(委員)

子どもたちにとって統合は急務だと思っており1日も早く実現したいが、我々としては学校の位置を決定するための根拠が欲しい。その根拠になるものは総合計画だと思うがいかがか。

(町長)

総合計画がないと統合しないということか。総合計画では統合という方向性を出していると思う。場所として西小は本当に適しているのか、また、東南西それぞれのメリット・デメリットを精査する機会が今後あっても良いと思うが、今までそれができていない。基本的に中学校敷地となっているが、一旦中学校敷地は諦めて既存の小学校でなるべく早く統合する。

3小学校のどこかという議論は次のステップとしてこの1年間やっていくことで、令和9年は遅らせずに統合できるのではと思うがいかがか。

(教育長)

校長先生方と連携しながら1年間議論する中で、100年150年続いてきた学校を閉じるということ、現場の先生や地域の皆さんは大事に考えていると感じる。今の学校を良い形で閉じるためにどれほどの時間が必要なのかを確認する必要がある。令和9年4月だと丸3年しかない状況なので合意形成は必要だと思っている。令和9年4月を目指して欲しいという提案はしっかり受け止め、最善の努力をしたい。

(委員)

子どもを中心に考えるとして西小学校案の場合、整備の間、子どもたちはどうするのか。仮設校舎なのか、違う学校に行くのか、どう考えているか。

(町長)

どれほどの工事が必要かにもよる。児童クラブを他に作れば済むのであればそのまま入れると思う。工事が必要であれば工事期間は東小を使い、工事が終わったら西小に移転することも考えられる。そのためには詳細なプランニングが必要になると思う。できれば仮設のプレハブは避けたい。学校が3つもあるので何らかの方法があるのでは。

(委員)

仮設をせずに西小の児童を東小へ持っていき、東小の校舎にいる間に西小を改築するということか。

(町長)

考えとしては統合。西小に東小が吸収されるわけではない。東小をまず利用し、その後、西小に移るのも1つの案。引っ越すのも大変だが、プレハブの仮校舎も大変。何もせずに東小に入れるのであれば、その間に西小を改装して移転することができるのではないか。

(委員)

新しい校舎は何年先という目処は一切なく、とりあえず統合をするという方針なのか。

(町長)

統合を急いでほしいとの声が聞こえているので、とにかく統合できる方法を探す。西小にそのまま入ればベストだが、より綿密なプランニングが必要になると思う。

(委員)

町長の中では、中学校敷地は一切ないということだが、最終的な決定権は教育委員会にあり、その根拠は民意。住民の合意形成を基に決定するという服務規定があるので、私たちだけで町長のプランが良い、とここで決定することはできない。例えば住民にアンケートを取るようなことは一切考えていないか。

(町長)

それは教育委員会で考えていただければと思う。予算決裁者として考えを伝えている。人口を増やす1つのツールになると思って、50億円以上かけたいと思う内容が掲示された上で、アンケートを取り、それが皆さんの意見であれば私としてはやぶさかではない。中学校敷地にしたい現状の理由や内容で、中学校敷地に反対している方たちに対して説得ができない。

これ以上、時間を無駄にかけるよりも子どもたちのために、まずは統合という提案をしている。教育委員会として統合したいのか、したくないのかはっきりしてほしい。中学校敷地なのか、どこの校舎を使うかという柔軟な議論ができるのか。

今回、町の将来像を考えて1番良い案を示している。それでも議論してきたから中学敷地以外はないというのであれば統合はなくなる。多額の費用をかけた中学校敷地で決裁しない。統合したいというアンケート結果があり、統合は早くした方がいいので、まずは統合して中身にお金をかけるという提案をしている。

(委員)

アンケートはできないかということ。統合はみんなが望んでいること。既存の小学校を使って手っ取り早く統合してしまうのと、今まで案を進めるのかをアンケートを取るべきでは。

(町長)

それはお任せする。今日は提案させていただく場として捉えている。教育委員会がアンケートを取って決めたいのであればよいと思う。どのようなアンケートかによるが、早く方向性を決めたいと思っている。それは切にお願いすること。

(委員)

町長が町づくり構想を発表したことで、改めて町民の声を聞かなければと思う。教育委員会で決めてほしいと言われたが、町民の代表として個人の意見ではなく、町民の合意形成を踏まえた上で議論しているので、中学併設はやめるということを町民に問わなければ結論は出せない。時期的にも1年程度かかってしまうのでは。

(町長)

学校の場所の議論と、統合の議論を一旦切り分けてほしい。まずは統合するということで合意を得られないのか。再度、意見を聞いたりアンケートを行うことで結論が遅くなったら、1番かわいそうなのは子ども。早く統合の準備をしてほしい。要望を出すしかないので、要望としては早く統合してほしい。また統合するというだけでも決めて準備に移してほしい。

(委員)

町長が、このプランを確約いただけるのであればその方向で考えていけるが、確約をいただかないと統合の場所すら決定できない。教育振興基本計画に、小学校3校を1校に統合するため施設の整備及び必要な準備を進めるとあるので、統合はする方向である。

(次長)

小学校統合が町づくりの中にどう位置付けられるかの裏付けがほしいという要望。

(町長)

町の総合計画を変更する手続きなどまだ分からないが、これはあくまで私のビジョン。議会の同意なしでやりますとは言えない。今は、民間の力を借りる等の色々な方法を模索しているところ。これが総合計画に盛り込まれていれば皆さんも判断しやすいかもしれないが、勝手に作れる話ではない。別に計画になくてもビジョンを話したので、皆さんが賛同するかしないかだと思う。何度も言うように、現在の内容では決裁はしないので、どちらかだと思う。本当に山中敷地が良ければ私を説得するしかない。この1年間、私が町民の皆さんを説得できるぐらいの説得をしてほしかったが、なかったので既存の小学校を使うという提案をしている。

(委員)

統合はする。それに向けて地域懇談会や統合準備委員会等の手順を踏んで進んできた。統合準備委員会にオブザーバーとして参加した。議長が山中敷地に統合することを堅持すると最後にまとめたが、関わってきて人間として賛成した。教育の中身を議論してきたが、もしかしたら薄かったかもしれない。今日は町長と話ができるという機会なので、教育に対する条件整備という点で少し要望を申し上げたい。

町づくりの一環として、野沢温泉村はスキーと英語に特化した教育方針を打ち出している。地域の特色を生かした教育が行われているが、町も似た状況なので同様なことができるのではと思う。子どもの視力低下について、太陽の下で野外活動をするという台湾での実践を聞いたが、視力低下はGDPの低下にも影響するので先ほどの話とも関係すると思う。

直接、結びつかないかもしれないが、私の経験上、スキーは人の心と体を元気にする点で教育にうってつけだと思う。地域の特色を生かした教育をしてほしい。

話を戻す。町長のビジョンを説明されたが、今まで手順を踏んできた人たちを納得させるような説明がないと、町長の考えも町民に伝わらない。何年もかけて話し合ってきたことなので、このビジョンをもっと早めに住民に知ってもらえれば手っ取り早かったのではと思う。

(町長)

野沢のやり方は非常にいいと思う。小さい村だからこそやれている内容も多い。山ノ内町は志賀高原という大きなスキー場がある。歴史もあるので、スキーやスノーボードを教育に取り入れていきたい。そのような遠くからでも通いたくなる学校を作りたいと思っている。私も別に10年間議論してきたことを蔑ろにしたいわけではない。ただ、時代が変わってしまったというのははっきりと申し上げたい。世界情勢も踏まえて町にベストな方法を取るのが私の仕事。教育イコールお金のことは考えなくてもいいという時代ではない。

50億円かけて50億円以上のリターンがある内容ならハンコを押す。何度も言うようにその議論がなかったという話。まずはお金をかけずに統合しようと。本来の目的である統合自体にそこまでお金はかからないはず。それでも50億円以上かけるというのであれば平行線になってしまう。統合は新校舎がなくてもできるはず。

(委員)

時代が変わったのはその通りだと思う。ただ今まで町民の代表が議論し合意形成してきた。要は町の民意だと考えていただければ。時代が変わったからできないというが、町づくりのビジョンが理由だと説明していただき合意形成を作ってほしい。

(町長)

今日がその説明の場だと思い説明した。それを教育委員会がどう思うかは教育委員会に任せられた方がいいと思う。

(委員)

教育委員会としては町長が合意形成をしていただかないことにはどうしようもない。町づくりプランは素晴らしいが現実かどうか分からない。町民に選ばれた町長だが、我々の提案も町民の民意。それを決裁できないのであればこの場だけでなく、町長の責任で説明して合意形成を図るべき。

(町長)

言いたいことはなんとなく分かるが、町民に働きかけて合意形成を得るのは教育委員会の仕事だと思う。教育委員会に対する提案に基づいて、教育委員会が今まで合意形成してきた人たちに対して町長の考えを説明することを仕事としてやるべきだと思う。

(委員)

合意形成してあるものを変えると町長ご自身が言っている。

(町長)

選挙で選ばれたので一旦立ち止まって考えるとして、議論を続けて中身を作るようお願いをして1年経った。僕の考え方をお伝えしたが、皆さんの考え方はどこにあるのか。民意というが自分たちの考えで町民と話をすべきだと思うがどうか。僕が全部、お膳立てして町の総合計画にまで入れ込むのには時間もかかり、統合も遅れてしまう。

(委員)

論点がすり替わっている気がする。

(町長)

私の仕事として教育委員会にビジョンをお話した。ハードからソフトへという転換の方向性を示した裏にある考え方を話して、これを基に教育委員会がどう動くのか。

(委員)

町長は、とりあえず仮校舎でもいいから一刻も早く統合を先行して、校舎については今は考えないと。狭い場所に押し込んででも、子どもたちがあちこちに行ってもいいから、とにかく1箇所に統合してしまえという方向性なのか。

(町長)

言い方もあるが、あちこち行ってもいいとは言っていない。まず統合しませんかということ。場所に関しては、西小にするなら本当に適しているのか検証は必要。様々な検証が必要だが既存の小学校で統合しようという提案。なるべく引っ越しはすべきではないと思うが、まずは既存の小学校で統合しませんかというシンプルな提案。

(委員)

ここで結論は出せないが教育長に確認したい。教育委員会として町長のビジョンを踏まえた上、持ち帰って検討する方向でよいか。

(教育長)

明日、教育委員会の臨時会が予定されており、年度内に教育委員会としての姿勢をまとめる。そのため総合教育会議で町長のお考えを語っていただき、確認すべきことを1つ1つ確認していくのが今日の趣旨だと思う。町長の提案は本当にワクワクする内容で、町として一丸となって進めていけば、素晴らしい山ノ内町の未来が待っていると思う。

学校をどこにするのか、統合するのかしないのかは我々が責任を持って決めなくてはいけないこと。昨年9月に第1回総合教育会議があり、町長のお考えを今日の半分ほど語っていただいたが、今日はそれを全て出していただいた。つまり町長は相当の覚悟を持ってビジョンを進めると重く受け止めた。教育委員会としても、しっかり受け止めた上で明日を迎えたい。

質問にもあったが、総合計画で合意がないと前に進めないとなるとタイムロスも出てしまう。あくまでも同時進行で同じ方向を向いて町全体で進めていくという受け止めでよいか。

(町長)

それでいいと思う。最後に言わせていただくと、このビジョンを具現化するにはかなりのステップが必要になる。職員と一緒に作り、そして議会の承認をいただく。町の活性化について1つずつ作り上げていくために決意を持って動いていく。魅力のある町にするという点で、教育長のポテンシャルで山ノ内の学校の魅力を作ってほしいと思う。私は期待しているし、私は町の方でしっかり町づくりをしていく。

(教育長)

町長が相当の決意を持って出していただいたビジョンをしっかり受け止め、明日の臨時会では我々が大事にしてきたこと、現場の先生方の思いや子どもたちにとって何が最善であるのかも兼ね合わせながらベターな答えをまとめられるように協議をしたい。



まとめとして統合はする。場所が決まらなければ統合できないのかと町長から疑問を呈されたとも思うので、いつまでに統合というゴールをある程度見据えながら、場所をどうするかという議論の仕方もあると町長の話聞いて思った。我々としても少し視野を広げながら今の子どもや先生にとってベターな答えをなんとか見出していきたい。

(次長)

教育長、町長それぞれまとめの話をいただいた。予定の時間も過ぎたので終了とさせていただく。明日開催される臨時教育委員会も公開の予定。文化センター3階ホールにて午後3時から行う。これで山ノ内町総合教育会議を閉会とする。